

令和 5 年 10 月 25 日現在

機関番号：34531

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10843

研究課題名(和文) 看護実践能力の評価指標を基盤とした看護学実習カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of Nursing Practice Curriculum Based on Assessment Indicators of Nursing Practice Competence

研究代表者

江川 隆子 (EGAWA, TAKAKO)

関西看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号：40193990

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：看護学教育の約25%の時間を費やし、看護師の社会人基礎力の育成に重要な役割をもつ実習の効果を上げるため、看護学実習で獲得する能力の要素を明確にし、看護学実習の内容と実習で獲得する看護実践能力との関係の解明を図った。学生の学びの促進を阻む実習での教育課題の具体化によって、看護学実習のカリキュラムの抜本改善につながる改善策が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護学実習の評価を社会人基礎力としてのPROG (Progress Report on Generic skills)を用いて客観的に評価する事が出来る。  
看護学実習と他の学士課程との間でどのような教育方法が社会人基礎力を伸ばしているかを分析する事が可能である。同時に他の専門分野からの評価を受ける事が可能となり、看護学実習の内容や指導方法、時期など検討する事が出来る。

研究成果の概要(英文)：In order to improve the effectiveness of practical training, which takes up approximately 25% of the time in nursing education and plays an important role in the development of basic skills for nurses in the workforce, we clarified the elements of competencies acquired in nursing practice and elucidated the relationship between the content of nursing practice and the nursing practice competencies acquired in practical training. By materializing the educational issues in practical training that hinder the promotion of student learning, improvement measures leading to a radical improvement of the nursing practice curriculum were clarified.

研究分野：慢性看護学

キーワード：看護実践能力 リテラシー・コンピテンシー 看護学実習 教育設計 実習の客観的評価 PROGテスト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

大学には社会で活躍する人材の育成が期待されている。看護学実習は、看護学教育の約 25% の時間を費やし、看護師の社会人基礎力の育成に重要な役割をもっている。

#### (1) 看護学実習と獲得する能力の状況

看護学教育の特徴として全教科の約 25% を占める看護学実習の存在がある。看護学実習は多種多様な状況で多様な対象との直接の関りを通して既習の知識を複合的に活用する場である。このような看護学実習は、いわゆる社会人基礎力も培われると考えられ、平成 29 年度の文部科学省『大学における医療人養成の在り方検討会』で、社会が求める看護人材を育てるための看護学実習の改革の必要性が報告されたが、実習ではどのような看護実践能力が獲得できるのか、獲得する看護実践能力と実習内容との関係が不明確である。

#### (2) これまでの取組成果と課題

大学で獲得する社会人基礎力の実態を確認するため、先行研究として A 大学の、看護学実習前の 1 年生、各論実習後の 3 年生、課題（総合実習）後の 4 年生を対象にコンピテンシーを調査したところ、4 年生の多くにコンピテンシーの低下があった。一部に大きく成長した学生もいたが、コンピテンシーの変化が著しい学生へインタビューをした結果、学生の課題発見力、自信創出力、行動持続力などが実習とのかかわりがある能力であることが推測された。

### 2. 研究の目的

看護学実習で獲得する能力の要素を明確にし、看護学実習の内容と実習で獲得する看護実践能力との関係を明らかにし、看護学実習のカリキュラムの開発をはかることである。具体的な取り組み課題は、次の通りである。

(1) 看護学実習前後で実施する PROG のスコアの変化に着目し、看護学実習で獲得する看護実践能力の要素の明確化。

(2) 複数大学での PROG スコアに基づき、実習内容の違いと実習で獲得する看護実践能力の差異・関係を明確化する。

(3) 看護学実習の教育要素の抽出と、実習カリキュラムの開発（見直しと改善）をする。

### 3. 研究の方法

看護実践能力をより客観的に評価するため、共通指標として、社会で求められる汎用的能力の客観的評価指標 PROG (Progress Report on Generic skills) を用いて確認した。4 大学を協力機関として調査を行った。

#### (1) 看護学実習で獲得する能力要素の明確化

研究協力の同意を得た 4 大学を対象に次の調査を行った。2019 年度から 2021 年度にわたり、初年次実習、2 年時実習、3 年時実習の各実習前後で PROG を実施した。

の PROG 結果から、スコアが上がった/下がった学生を抽出し、スコアの変化のあった項目をもとにしてインタビューを行った。

実習に影響した要因の検討

学生のインタビュー結果と各大学の实習内容から影響要因の検討を行った。

#### (2) 実習内容の違いと実習で獲得する看護実践能力の差異・関係の明確化

複数大学での PROG スコア特にコンピテンシーの低下に影響する因子を各大学の結果を基に分析した。

#### (3) 看護学実習の教育要素の抽出と、実習カリキュラムの開発へ

看護系学術集会において交流集会を開催し、調査結果を多数の教員と課題を共有し、実習で伸びる能力と伸びない能力とその要因について意見の集約を図った。

#### (4) 実習における能力育成カリキュラムの総括と情報発信

### 4. 研究成果

#### 結果(1):

看護学実習で獲得する能力要素の明確化

実習開始前（1・2 年時）と領域別実習終了時（3 年終了時）の縦断調査を行った。

ジェネリックスキルの評価にあたっては「リテラシー」と「コンピテンシー」の 2 側面から検討を行った。リテラシーの能力獲得とは一言でいえば知識の獲得であり、既存の学習方法でも十分にその能力は評価できる。（西園 2018）リテラシーは学校教育で伝統的に養成される能力であり、職業人となってから大きな変化はないとされている。一方、コンピテンシーは状況への汎用的対応能力である。コンピテンシーは、大分類では、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力の 3 つに分類され、中分類では、対人基礎力は、親和力、協働力、統率力に、対自己基礎力は、感情制御力、自信創出力、行動持続力に、対課題基礎力は、課題発見力、計画立案

力,実践力にと9分類で示される。大分類では,全項目で実習後のスコアが上昇したが,中分類でみると,9項目の内,協働力,行動持続力に2項目が実習後に低下した。コンピテンシーを構成する9つの項目別比較では,実践力は上昇したが,統率力,課題発見力,行動持続力,自信創出力,感情制御力,親和力の得点低下があった。特に低下の著しい統率力は,建設的・創造的な討議や意見調整と交渉の状況を反映したものであり,自己の意見を分かりやすく伝えられない学生側の要因と,学生が意見を伝えやすい環境にない要因があると考えられた。また,課題発見と行動持続力の関連には,本質理解や原因追及と,主体的行動などがあり,実習での要因追求を深める支援が必要と考えられた。(図1.)

**結果(2):**

実習内容の違いと実習で獲得する看護実践能力の差異・関係の明確化

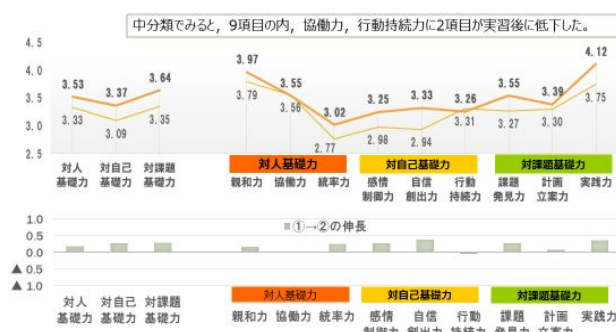


図1. コンピテンシーの変化(大中分類)



図2. コンピテンシーの変化(大中分類)

各大学共に実習後に PROG の総合スコアの上昇がみられたが,能力項目別での変化(上昇,下降)は様々であることを確認した。特徴的な変化として,実習後のスコアで下降があったのは, <協働力>, <行動持続力>であった。コンピテンシーの変化(上昇・下降)が著しい学生へインタビューをした結果,学生の課題発見力,実践力,親和力,統率力,自信創出力,行動持続力などが患者との関わり,グループ活動やカンファレンス,臨床からの指導による影響があることが解った。

**結果(2)(3):**

**看護学実習の教育要素の抽出と,実習カリキュラム**

前後のスコアが変化した学生のインタビューを通して,変化項目に関連する実習中のエピソードの確認を行い,能力育成と実習に影響した要因の抽出を進め,これらの調査結果を交流集会等で多数の教員と共有し,実習で伸びる能力と伸びない能力とその要因について意見の集約を図った。その結果,シラバス等に記載された目標共有のあやふやさやが浮き彫りになった。教員同士の共有,教員と学生の共有の双方に課題があることが見えてきた。

教員が伸びたと評価している項目と学生が獲得しているスコアに齟齬がある項目があった。交流集会参加の教員と結果課題を共有することで,下記の意見を得た。

**悩む学生に対して,それは学生の資質だと思ふところがあったが,教育者としてどう導くかだなと思ひ直した。**

**学生の伸びしろに期待している。どのような教育をするか,学生の多様性に柔軟に反応できる教育者でないとならないと思ふ。**

**結果(4):**

実習における能力育成カリキュラムの総括と情報発信 DP を実習目的・目標に反映させ,教員間での目標の共有,学生と教員の目標共有の徹底が課題解決の鍵となることが明らかになった。

この経過は動画にして共有を図っている。

## 参考文献

- 看護学教育のあり方に関する検討会報告（文部科学省.2012）
- 看護学生の看護実践能力に関する検討；関西看護医療大学紀要 No10、2018.3
- 文部科学省政策議会資料(2011)：看護学基礎カリキュラムの解説資料
- 平成 29 年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業 報告書
- 社会人基礎力に関する調査・報告書、経済産業省（2006）
- Assessing an Assessment Tool of Higher Education: Progress Report on Generic Skills (PROG) in Japan、
- International Journal of Evaluation and Research in Education (IJERE)、Vol.3、No.1、March 2014、pp.1-10
- 看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標（看護学教育の在り方に関する検討会報告）、文部科学省（2004）
- 「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書、厚生労働省（2003）
- 看護実践能力に関する概念分析：国外文献レビューを通して；日本看護研究学会誌 Vol.34、No.4、（2011）
- 国内外における看護実践能力に関する研究の動向 看護基礎教育における看護実践能力育成との関連 ；目白大学,健康科学研究第1号、149-158、（2008）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西園貞子、勝井伸子	4. 巻 17
2. 論文標題 看護の高等教育化への歩みとアクティブラーニング展開の要請	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山美智代、勝井伸子、西園貞子	4. 巻 11
2. 論文標題 看護過程の授業はどう展開されているか(2)：看護大学シラバス分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 梅花女子大学看護保健学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西園貞子 勝井伸子	4. 巻 4
2. 論文標題 看護教育の幸徳教育化への歩みと課題としてのアクティブラーニング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 62,69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西園貞子 勝井伸子 箕浦洋子 橋口智子	4. 巻 18
2. 論文標題 学生が主体的にデザインする実習 - 統合実習の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西園貞子, 勝井伸子, 箕浦洋子	4. 巻 18
2. 論文標題 IBL アセスメント教育プログラムによる課題発見力開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 70-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 西園貞子, 箕浦洋子, 三浦智恵
2. 発表標題 IBL (Inquiry-Based Learning) 教育プログラムの導入による課題発見力の育成 看護師の基礎力測定指標 (PROG) による評価
3. 学会等名 看護管理学会 第25回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Teiko Nishizono, Yoko Minoura
2. 発表標題 Fundamental Competencies for Professional Nurses: Qualitative Analysis of Interviews with Nursing Directors
3. 学会等名 ICERI2020 13th annual International Conference of Education, Research and Innovation
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西園貞子, 江川隆子, 赤澤千春
2. 発表標題 看護学実習後における社会人基礎力の特徴
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teiko Nishizono, Yoko Minoura, Takako Egawa
2. 発表標題 Characteristics of the abilities of nurses and general members of society in the evaluation of basic skills in society.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 西園貞子、江川隆子、赤澤千春
2. 発表標題 看護学実習前後に変化する社会人基礎力(看護実践能力)の特徴
3. 学会等名 日本看護研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤澤千春、江川隆子、箕浦洋子、西園貞子
2. 発表標題 看護学実習前後での看護実践能力テストのコンピテンシー数値が大きく変化した学生のインタビュー調査 ～対課題基礎力～
3. 学会等名 日本看護研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西園貞子、江川隆子、赤澤千春、箕浦洋子
2. 発表標題 看護学実習で獲得する看護実践能力と教育設計の検討～実習前後のPROGの縦横断的調査による獲得能力の分析から～
3. 学会等名 第48回日本看護研究学会学術集会(愛媛)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西園貞子, 箕浦洋子, 吉見絵美子, 江川隆子
2. 発表標題 主体的な学びの好循環を生み出す教育の仕掛け 基盤教育と卒後教育におけるIBL教育プログラムでの展開
3. 学会等名 看護研究学会学術集会 交流集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 箕浦洋子, 西園貞子, 吉見絵美子
2. 発表標題 IBL教育プログラム導入による中堅看護師の看護実践力の変化特徴：看護管理学会学術集会 交流集会
3. 学会等名 看護管理学会学術集会 交流集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西園 貞子  (NISHIZONO TEIKO)  (50458014)	奈良学園大学・保健医療学部・教授   (34604)	
研究分担者	日隈 ふみ子  (HINOKUMA FUMIKO)  (60189800)	佛教大学・保健医療技術学部・教授   (34314)	
研究分担者	赤澤 千春  (AKAZAWA CHIHARU)  (70324689)	大阪医科大学・看護学部・教授   (34401)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青山 美智代  (AOYAMA MICHIO)  (80264828)	梅花女子大学・看護保健学部・准教授    (34424)	
研究分担者	神谷 千鶴  (KAMIYA CHIZURU)  (80361236)	関西看護医療大学・看護学部・教授    (34531)	
研究分担者	箕浦 洋子  (MINOURA YOKO)  (20650071)	関西看護医療大学・看護学部・教授    (34531)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関